

第16号様式(第17条関係)(A4)

1 鉄骨造用

工事施工結果報告書

(表面)

次のとおり工事の施工の結果を報告します。

年 月 日

建築主事宛て

報告者 住 所
ふりがな
氏 名

1	建築主の 住所・氏名	住所 ふりがな 氏名 電話番号
2	工 事 監理者の 住所・氏名	住所 ふりがな 氏名 電話番号 ()級建築士 () 第 号 ()級建築士事務所・登録第 号
3	工事施工 者の住 所・氏名	住所 ふりがな 氏名 電話番号 建設業者許可番号()第 号
4	確認済証 番号及び 確認済証 年月日	第 号 年 月 日
5	指定確認 検査機関 名及び建 築基準判 定資格者 名	機関名 資格者名
6	溶接工 事施工 者	
	住 所 氏 名	
	鉄骨加工工 場の名称	電話番号
7	鋼材の流 通経路等	(鋼材の製造者及び流通経路について記載又はこれに代わる書類(裏書ミルシート等)を添付すること。)
8	溶接管理 責任者の 所属資格 及び氏名	
9	溶接検査 責任者の 資格及び 氏名	

11	溶接工事の内訳	使用部位	鋼種	溶接棒	作業姿勢	溶接工の資格及び人数	検査方法
11	工事	突合せ					
11	溶接	すみ肉					
11	現場溶接	突合せ					
11	現場溶接	すみ肉					
11	高力ボルトの種類及び品名		鋼材の製造会社				
12	鉄骨建方工事予定年月日		開始予定日		年月日		
			終了予定日		年月日		
13	使用材料	セメント	品名	種別		製造工場	
		細骨材	品名	種別		塩分量	
		粗骨材	品名	種別		最大寸法	
		混和材					
		レディーミクストコンクリート	製造会社及び製造工場名 (JIS認定 有 無)			ポンプ車の圧送能力 形式 口径	

1 鉄骨造用(A4)
(裏面)

14 材料強度		打込み 年月日	コンク リートの 種類	呼び 強度	設計基 準強度	スラン プ	圧縮強度 28日	圧縮強度 28日 91日	公 的 試 験 場 所 名
	基礎及び 基礎ばり								
	地下 階								

- (注意) 1 報告者、建築主、工事監理者及び工事施工者が法人のときは、報告者、建築主、工事監理者及び工事施工者の住所及び氏名には、法人の主たる事務所の所在地並びに法人の氏名及び代表者の氏名を記入してください。
- 2 5欄は、宇治市建築主事以外の者が確認済証を交付した場合に記入してください。
- 3 13欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- 4 「圧縮強度」とは、標準養生供試体の圧縮強度をいいます。
- 5 「圧縮強度」とは、昭和56年6月1日建設省告示第1102号による現場水中養生供試体又はコア供試体の圧縮強度をいいます。
- 6 この報告書には、工事写真及び試験成績を添付してください。
- 7 工事施工結果報告書について
- (1) 確認を受けた鉄骨造の建築物で、次のいずれかに該当する建築物については、主要構造部の工事が完了した後、速やかにこの報告書に必要な事項を記入し、工事写真及び試験成績書を添えて、建築主事に提出してください。
- なお、対象となる建築物が2棟以上ある場合は、棟ごとに報告書を作成し提出してください。
- ア 地階を除く階数が3以上のもの
- イ 延べ面積が500平方メートルを超えるもの
- ウ その他建築主事が特に必要と認めて指定するもの
- (2) XY方向、高さ方向あるいは平面的に構造が異なる併用構造や鉄筋コンクリート造で大屋根が鉄骨造のものなどは、鉄骨鉄筋コンクリート造用の報告書で報告してください。
- なお、地階が鉄筋コンクリート造のものは鉄骨造用とします。
- 8 工事写真について
- 次の表に掲げるものを別紙に張り付けて提出してください。(カラーフィルムを使用し、大きさはE版とします。)
- なお、各写真には工事名、工事施工者名、撮影年月日及び撮影箇所を記入した黑板等や帯筋等の配筋の間隔が分かるようスケールを添えて撮影してください。

工 程	撮 影 時 期	撮 影 場 所	提出数
杭 打 工 事	杭打完了時	全景	1
基礎・基礎ばりコ ンクリート工事	配筋完了時	基礎・基礎ばり及び全景	各1
	鉄骨加工時	柱とはりの仕口の開先状況	1
鉄 骨 工 事	建方完了時	柱脚、柱とはり溶接部、継手ブレース及び全景	各1

9 試験成績書について

- (1) 次の表に掲げる試験については、公的試験場等で行い、その結果成績書を一部提出してください。
- なお、試験成績書は写しではなく試験所等が作成し押印したものとします。

試 験 名	該 当 材 料	試 験 項 目	試 験 方 法	試 験 実 施 者
コンクリート 試験	硬化したコ ンクリート	構造体コンクリ ートの強度推定 のための圧縮強 度28日(91日)	JASS T 603	公的試験場
鉄骨溶接部試 験		超音波探傷検査	日本建築学会「鋼 構造建築溶接部 の超音波探傷検 査基準・同解説」	工事施工者

- (2) 公的試験場とは日本建築総合試験所(京都分室)、その他の公的機関又はこれに準ずる機関をいいます。
- (3) (91日)については建築主事が指定した場合に提出してください。
- (4) 超音波探傷検査については、日本非破壊検査協会「非破壊検査技術者技量認定規程」による有資格者が行わなければならない。
- (5) 試験回数及び試験の採取方法については、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説(JASS5鉄筋コンクリート工事)」等に準拠してください。

工事施工結果報告書

(表面)

次のとおり工事の施工の結果を報告します。

年 月 日

建築主事宛て

報告者 住 所
ふりがな
氏 名

1	建築主の住所・氏名		住所 ふりがな 氏名		電話番号							
2	工事監理者の住所・氏名		住所 ふりがな 氏名		電話番号 ()級建築士 ()第 号 ()級建築士事務所・登録第 号							
3	工事施工者の住所・氏名		住所 ふりがな 氏名		電話番号 建設業者許可番号()第 号							
4	確認済証番号及び 確認済証年月日		第 号		年 月 日							
5	指定確認検査機関名及び 建築基準判定資格者名		機関名		資格者名							
6 使用 材 料	セメント	品名		種別	製造工場							
	細骨材	品名		種別	塩分量							
	粗骨材	品名		種別	最大寸法							
	混和材											
	レディーミクスト コンクリート	製造会社及び製造工場名 (JIS認定 有 無)		ポンプ車の圧送能力 形式 口径		打込み速度						
	棒鋼	種類	継手方法		ガス圧接等の検査方法		公的試験所					
7	ガス圧接施工業者の名称 及び責任者の氏名			電話番号								
8	コンクリート圧送業者の 名称及び責任者の氏名			電話番号								
9 設 計 か ぶ り 厚 さ	部位	土に接しない部分			土に接する部分	部位			土に接しない部分			土に接する部分
	柱	屋外		屋内		はり	屋外		屋内			
	屋根版	屋外		屋内		耐力壁	屋外		屋内			
	床版	下端		上端		非耐力壁	屋外		屋内			
	調査計画番号											
	打込み箇所											

10 打 込 み 結 果	打込み年月日								
	コンクリートの種類								
	設計基準強度								
	呼び強度								
	スランプ								
	空気量								
	圧縮強度 28日								
	圧縮強度	28日							
		91日							
	公的試験所名								
	塩化物量								
	使用塩化物測定器								

- (注意) 1 報告者、建築主、工事監理者及び工事施工者が法人のときは、報告者、建築主、工事監理者及び工事施工者の住所及び氏名には、法人の主たる事務所の所在地並びに法人の氏名及び代表者の氏名を記入してください。
- 2 4欄は、宇治市建築主事以外の者が確認済証を交付した場合に記入してください。
- 3 6欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。

2 鉄筋コンクリート造用(A4)

(裏面)

- 4 「圧縮強度」とは、標準養生供試体の圧縮強度をいいます。
- 5 「圧縮強度」とは、昭和56年6月1日建設省告示第1102号による現場水中養生供試体又はコア供試体の圧縮強度をいいます。
- 6 この報告書には、工事写真及び試験成績を添付してください。
- 7 工事施工結果報告書について
 - (1) 確認を受けた鉄筋コンクリート造の建築物で、次のいずれかに該当する建築物については、主要構造部の工事が完了した後、速やかにこの報告書に必要な事項を記入し、工事写真及び試験成績書を添えて、建築主事に提供してください。
 なお、対象となる建築物が2棟以上ある場合は、棟ごとに報告書を作成し提出してください。
 ア 地階を除く階数が3以上のもの
 イ 延べ面積が500平方メートルを超えるもの
 ウ その他建築主事が特に必要と認めて指定するもの
 - (2) XY方向、高さ方向あるいは平面的に構造が異なる供用構造や鉄筋コンクリート造で大屋根が鉄骨造のものなどは、鉄骨鉄筋コンクリート造用の報告書で報告してください。
 なお、地階が鉄筋コンクリート造のものは鉄骨造用とします。
- 8 工事写真について
 次の表に掲げるものを別紙に張り付けて提出してください。(カラーフィルムを使用し、大きさはE版とします。)
 なお、各写真には工事名、工事施工者名、撮影年月日及び撮影箇所を記入した黒板等や帯筋等の配筋の間隔が分かるようスケールを添えて撮影してください。

工 程	撮 影 時 期	撮 影 場 所	提出数
杭 打 工 事	杭打完了時	全 景	1
基 礎 ・ 基 礎 ば り コ ン ク リ ー ト 工 事	配筋完了時	基礎・基礎ばり及び全景	各1
コ ン ク リ ー ト 工 事 (2 階 床 、 最 上 階 床)	配筋完了時	柱、はり、床及び全景	各1

9 試験成績書について

- (1) 次の表に掲げる試験については、公的試験場等で行い、その結果成績書を一部提出してください。
 なお、試験成績書は写しではなく試験所等が作成し押印したものとします。

試 験 名	該 当 材 料	試 験 項 目	試 験 方 法	試 験 実 施 者
骨 材 試 験	砂利・砂・碎石・砕砂	アルカリ骨材反応	化学法・モルタルパー法	公的試験所
コ ン ク リ ー ト 試 験	フレッシュコンクリート	塩化物量	JASS 5T 502	工事施工者
	硬化したコンクリート	構造体コンクリートの強度推定のための圧縮強度28日(91日)	JASS T 603	公的試験所
棒網継手試験	棒網ガス圧接部	引張強さ 超音波探傷検査	JIS Z 3120 日本圧接協会規格 NAKS 0001 1983	公的試験所 工事施工者

- (2) 公的試験場とは日本建築総合試験所(京都分室)、その他の公的機関又はこれに準ずる機関をいいます。
- (3) アルカリ骨材反応試験については骨材業者が公的試験所において1年以内に受験したものとします。
- (4) 「工事施工者」については細骨材に海砂以外の山砂等を使用する場合で、その塩分量が0.04パーセント以下の場合、レディーミクストコンクリート製造会社(JIS認定工場に限る。)に代えることができます。
- (5) (91日)については建築主事が指定した場合に提出してください。
- (6) 超音波探傷検査(棒網ガス圧接部)については、日本圧接協会「鉄筋ガス圧接部超音波探傷検査技術者資格検定試験実施規程」による有資格者が行わなければならない。
- (7) 試験回数及び試験の採取方法については、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説(JAS S5鉄筋コンクリート工事)」等に準拠してください。

溶接工事の内訳	現場	突合せ							
	溶接	すみ肉							
11	高力ボルトの種類及び品名			鋼材の製造会社					
12	鉄骨建方工事予定年月日			年 月 日					
13 使用材料	セメント		品名	種別		製造工場			
	細骨材		品名	種別		塩分量			
	粗骨材		品名	種別		最大寸法			
	混和材								
	レディーミクストコンクリート		製造会社及び製造工場名 (JIS認定 有 無)		ポンプ車の圧送能力 形式 口径		打込み速度		

3 鉄骨鉄筋コンクリート造用(A4)

(裏面)

13	使用材料	種類	継手方法			ガス圧接等の検査方法			公的試験所名			
			棒	鋼								
14	ガス圧接施工業者等の名称及び責任者の氏名					電話番号						
15	コンクリート圧送業者の名称及び責任者の氏名					電話番号						
		部位	土に接しない部分			土に接する部分	部位	土に接しない部分			土に接する部分	
16	設計かぶり厚さ	柱	屋外		屋内		はり	屋外		屋内		
		屋根版	屋外		屋内		耐力壁	屋外		屋内		
		床版	下端		上端		非耐力壁	屋外		屋内		
17	打込み結果	調合計画番号										
		打込み箇所										
		打込み年月日										
		コンクリートの種類										
		設計基準強度										
		呼び強度										
		スランプ										
		空気量										
		圧縮強度 28日										
		圧縮強度		28日								
				91日								
		公的試験所名										
		塩化物量										
使用塩化物測定器												
18	備考											

(注意) 1 報告者、建築主、工事監理者及び工事施工者が法人のときは、報告者、建築主、工事監理者及び工事施工者の住所及び氏名には、法人の主たる事務所の所在地並びに法人の氏名及び代表者の氏名を記入してください。

2 5欄は、宇治市建築主事以外の者が確認済証を交付した場合に記入してください。

3 13欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。

4 「圧縮強度」とは、標準養生供試体の圧縮強度をいいます。

5 「圧縮強度」とは、昭和56年6月1日建設省告示第1102号による現場水中養生供試体又はコア供試体の圧縮強度をいいます。

6 この報告書には、工事写真及び試験成績を添付してください。

3 鉄骨鉄筋コンクリート造用(A4)

7 工事施工結果報告書について

(1) 確認を受けた鉄骨鉄筋コンクリート造の建築物で、次のいずれかに該当する建築物については、主要構造部の工事が完了した後、速やかにこの報告書に必要な事項を記入し、工事写真及び試験成績書を添えて、建築主事に提出してください。

なお、対象となる建築物が2棟以上ある場合は、棟ごとに報告書を作成し提出してください。

ア 地階を除く階数が3以上のもの

イ 延べ面積が500平方メートルを超えるもの

ウ その他建築主事が特に必要と認めて指定するもの

(2) XY方向、高さ方向あるいは平面的に構造が異なる併用構造や鉄筋コンクリート造で大屋根が鉄骨造のものなどは、鉄骨鉄筋コンクリート造用の報告書で報告してください。

なお、地階が鉄筋コンクリート造のものは鉄骨造用とします。

8 工事写真について

次の表に掲げるものを別紙に張り付けて提出してください。(カラーフィルムを使用し、大きさはE版とします。)

なお、各写真には工事名、工事施工者名、撮影年月日及び撮影箇所を記入した黒板等や帯筋等の配筋の間隔が分かるようスケールを添えて撮影してください。

工 程	撮 影 時 期	撮 影 場 所	提出数
杭 打 工 事	杭打完了時	全 景	1
基 礎 ・ 基 礎 ば り コ ン ク リ ー ト 工 事	配筋完了時	基礎・基礎ばり及び全景	各1
コ ン ク リ ー ト 工 事 (2階床、最上階床)	配筋完了時	柱、はり、床及び全景	各1
鉄 骨 工 事	鉄骨加工時	柱とはりの仕口の開先状況	1
	建方完了時	柱脚、柱はり溶接部、継手プレート及び全景	各1

9 試験成績書について

(1) 次の表に掲げる試験については、公的試験場等で行い、その結果成績書を一部提出してください。

なお、試験成績書は写しではなく試験所等が作成し押印したものとします。

試 験 名	該 当 材 料	試 験 項 目	試 験 方 法	試 験 実 施 者
骨 材 試 験	砂利・砂・砕石・砕砂	アルカリ骨材反応	化学法・モルタルバー法	公的試験所
コンクリート試験	フレッシュコンクリート 硬化したコンクリート	塩化物量 構造体コンクリートの強度推定のための圧縮強度28日(91日)	JASS 5T 502 JASS T 603	工事施工者 公的試験所
棒網継手試験	棒網ガス圧接部	引張強さ	JIS Z 3120	公的試験所
		超音波探傷検査	日本圧接協会規格 NAKS 0001 1983	工事施工者
鉄骨溶接部試験		超音波探傷検査	日本建築学会「綱構造建築溶接部の超音波探傷検査基準・同解説」	工事施工者

(2) 公的試験場とは日本建築総合試験所(京都分室)、その他の公的機関又はこれに準ずる機関をいいます。

(3) アルカリ骨材反応試験については骨材業者が公的試験所において1年以内に受験したものとします。

(4) 「 工事施工者」については細骨材に海砂以外の山砂等を使用する場合で、その塩分量が0.04パーセント以下の場合、レディーミクストコンクリート製造会社(JIS認定工場に限る。)に代えることができます。

(5) (91日)については建築主事が指定した場合に提出してください。

(6) 超音波探傷検査(棒網ガス圧接部)については、日本圧接協会「鉄筋ガス圧接部超音波探傷検査技術者資格検定試験実施規程」による有資格者が行わなければならない。

(7) 超音波探傷検査(鉄骨溶接部)については、日本非破壊検査協会「非破壊検査技術者技量認定規程」による有資格者が行わなければならない。

(8) 試験回数及び試験の採取方法については、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説(JAS S5鉄筋コンクリート工事)」等に準拠してください。